

浜の活力再生プラン
令和元～5年度
(第2期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	対馬地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 船津 博也 (佐須奈漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	厳原町漁業協同組合・阿須湾漁業協同組合・美津島町高浜漁業協同組合・美津島町西海漁業協同組合・美津島町漁業協同組合・豊玉町漁業協同組合・峰町東部漁業協同組合・上県町漁業協同組合・伊奈漁業協同組合・佐須奈漁業協同組合・上対馬南漁業協同組合・上対馬町漁業協同組合・長崎県対馬市
オブザーバー	長崎県対馬振興局水産課・長崎県対馬水産業普及指導センター

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	地域：伊奈漁業協同組合 漁業の種類：一本釣り漁業：31 経営体、定置網漁業：2 経営体 【計 33 経営体】
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

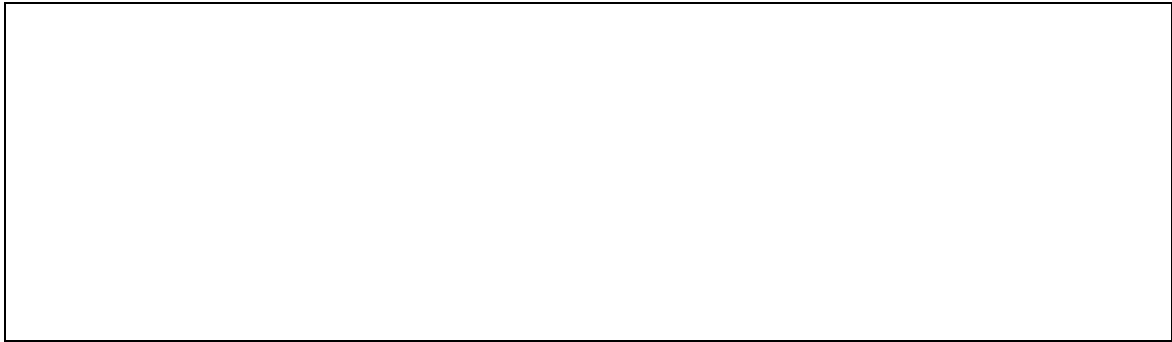
<p>当漁協は、対馬北西部に位置し、対馬海峡西水道に面した漁場において、一本釣り漁業を主体に4月、5月はミズイカ、6月から8月はヨコワ・カツオ、9月から12月はサバ、1月から3月はアカムツを対象魚種として漁業を営み、福岡市場をはじめとした本土へ鮮魚として出荷を行っている。特に当漁協のサバは、丸々と太り脂が乗っており、大きいものでは1.2キロ程のものが漁獲され、市場での評価も高いことから「いなサバ」として平成21年度からPRを展開し、ブランド化を推進している。その他、定置網漁業も行われ、年間を通じ多種多様な魚種が水揚げされ、福岡市場へと出荷を行っている。</p> <p>組合員数は、平成29年度において正組合員33名と小規模で、過半数が60歳以上の高齢であることから、県及び市と連携し、後継者の育成に取り組んでいる。なお、平成29年度の水揚量は約212トン、水揚金額は約1億6,985万円である。</p> <p>近年では、輸入水産物の増加及び魚食離れによる魚価の低迷並びに漁場環境の悪化等に伴う水産資源の減少などにより、漁業経営が厳しい状況である。</p>
--

(2) その他の関連する現状等

<p>原油価格の高止まり等による生産コストの増大を抑制するため漁業経営セーフティネット構築事業に加入し、国と一体となり燃油高騰対策に取り組んでおり、また、離島漁業再生支援交付金を活用した漁場の生産力回復に向けた取り組みを行っている。しかし、漁業者が安心して、安定的に漁業を営むことのできる抜本的な経営改善には至っていない状況である。</p>
--

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

漁業収益の向上及び維持を図るためには、近年の情勢を鑑み、生産コストの抑制を行う対策が継続して必要である。また、当漁協の戦略魚種として位置づけ、ブランド化を推進している「いなサバ」の商標登録等、知名度向上と高付加価値化の取り組みを更に進めるとともに、鮮度保持、規格統一の徹底により市場評価を高め、漁業者の所得向上を図る。加えて、サバの知名度向上効果を他魚種へも波及させ、魅力ある漁業へと転化を図る。

併せて、漁業者が安定的に漁業を営むことができるよう、国の事業等の支援を活用した漁場環境づくりにも引き続き取り組む。

よって、上記(1)に記した前期取組みを通じて得られた成果や課題等を踏まえつつ、次の基本方針を定め、以下の取り組みを行う。

【漁業収入を向上させるための取組】

- ・ 鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組
- ・ 販路拡大、地産地消に向けた取組
- ・ 種苗放流、ミズイカ産卵場・育成場の設置等による資源回復の取組
- ・ 後継者育成に向けた取組

【漁業コストを削減するための取組】

- ・ 減速航行の徹底
- ・ 船底清掃の徹底
- ・ 省エネ機器等の導入促進

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

長崎県漁業調整規則による採捕制限(アワビ 10 cm以下、サザエ 2.5 cm以下、ブリ 15 cm以下の採捕禁止)を徹底することで水産資源の適切な管理を行う。

(4) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目(平成31年度) 以下の取組により漁業所得を基準年対比2%向上させる。

以降、以下の取組内容は、取組みの進捗状況や得られた知見などを踏まえ、必要に応じて見直しすることとする。

漁業収入向上のための取組	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】</p> <p>《一本釣り漁業》</p> <ul style="list-style-type: none">・ サバに関する取組 <p>平成21年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での評価を更に高めるため、漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ6時間以上保冷庫で保管し、出荷の際は魚体に傷が無いか確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず5 kgから5.5 kgになるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。</p>
--------------	--

	<p>また、市場評価や信頼度を高めるため、漁協は出荷後の状況、例えば魚体に傷があるか、サイズ不統一など問題点を市場関係者から確認し、問題があれば漁業者に改善を求める指導を行う。</p> <p>漁協は、「いなサバ」の商標登録を行い、併せて、ブランドのPRを展開するためノボリ、ハッピー、Tシャツを製作のうえ市場や関係団体に提供し、知名度の向上を図る。</p> <p>また、地元スーパーでの直売については、規模を拡大して継続するとともに、福岡の卸業者への直接販売についても、引き続き新たな販路を開拓していく。</p> <p>・アカムツに関する取組</p> <p>漁業者は、1人の水揚尾数では出荷ロット数を満たさない場合、複数のアカムツ漁業者同士で合わせて1箱にして出荷することで、これまで自家消費するなどして所得にならなかった魚を販売し、収益向上を目指す。</p> <p>②【販路拡大、地産地消に向けた取組】</p> <p>《定置網漁業》</p> <p>定置網漁業者は、漁獲物の種類別、サイズ別の箱詰めを行い市場へ出荷するほか、「いなサバ」で行っている地元への直接販売の取組を定置網漁獲物にも併せて拡大し、地産地消を推進することで島内の需要を高め、漁業者の収益向上を目指す。</p> <p>③【資源回復に向けた取組】</p> <p>《全漁業者》</p> <p>全漁業者は、クエ、カサゴ、アワビなど収益性が見込める魚種等の種苗放流やウニの移植、ミズイカ産卵場の整備等を漁協と連携し行い、水産資源の維持及び増大に努める。</p> <p>④【後継者育成に向けた取組】</p> <p>漁協は、県の「次代を担う漁業後継者育成事業」等を活用し、県・市と連携しながら後継者の育成、新規漁業者の確保を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>・全漁業者は、出漁、帰港時に12ノットから10ノットへの減速航行（2ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し1.4%の燃油費の削減を目指す。</p> <p>・全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年2回実施を徹底し、基準年度に対し0.4%の燃油費の削減を目指す。</p> <p>・漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業競争力強化緊急事業 漁業経営セーフティーネット構築事業 離島漁業再生支援交付金事業 次代を担う漁業後継者育成事業（県事業）</p>

2年目（平成32年度） 以下の取組により漁業所得を基準年対比5%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】</p> <p>《一本釣り漁業》</p> <p>・サバに関する取組</p> <p>平成21年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での評価を更に高めるため、漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ6時間以上保冷庫で保管し、出荷の際は魚体に傷が無いか確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず5kgから</p>
---------------------	---

	<p>5.5 kgになるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。</p> <p>また、市場評価や信頼度を高めるため、漁協は出荷後の状況、例えば魚体に傷があるか、サイズ不統一など問題点を市場関係者から確認し、問題があれば漁業者に改善を求める指導を行う。</p> <p>漁協は、「いなサバ」の商標登録を行い、併せて、ブランドの PR を展開するためノボリ、ハッピー、T シャツを製作のうえ市場や関係団体に提供し、知名度の向上を図る。</p> <p>また、地元スーパーでの直売については、規模を拡大して継続するとともに、福岡の卸業者への直接販売についても、引き続き新たな販路を開拓していく。</p> <p>・アカムツに関する取組</p> <p>漁業者は、1 人の水揚尾数では出荷ロット数を満たさない場合、複数のアカムツ漁業者同士で合わせて 1 箱にして出荷することで、これまで自家消費するなどして所得にならなかった魚を販売し、収益向上を目指す。</p> <p>②【販路拡大、地産地消に向けた取組】</p> <p>《定置網漁業》</p> <p>定置網漁業者は、漁獲物の種類別、サイズ別の箱詰めを行い市場へ出荷するほか、「いなサバ」で行っている地元への直接販売の取組を定置網漁獲物にも併せて拡大し、地産地消を推進することで島内の需要を高め、漁業者の収益向上を目指す。</p> <p>③【資源回復に向けた取組】</p> <p>《全漁業者》</p> <p>全漁業者は、クエ、カサゴ、アワビなど収益性が見込める魚種等の種苗放流やウニの移植、ミズイカ産卵場の整備等を漁協と連携し行い、水産資源の維持及び増大に努める。</p> <p>④【後継者育成に向けた取組】</p> <p>漁協は、県の「次代を担う漁業後継者育成事業」等を活用し、県・市と連携しながら後継者の育成、新規漁業者の確保を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>・全漁業者は、出漁、帰港時に 12 ノットから 10 ノットへの減速航行（2 ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し 1.4%の燃油費の削減を目指す。</p> <p>・全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年 2 回実施を徹底し、基準年度に対し 0.4%の燃油費の削減を目指す。</p> <p>・漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業競争力強化緊急事業 漁業経営セーフティネット構築事業 離島漁業再生支援交付金事業 次代を担う漁業後継者育成事業（県事業）</p>

3 年目（平成 33 年度） 以下の取組により漁業所得を基準年対比 7%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】</p> <p>《一本釣り漁業》</p> <p>・サバに関する取組</p> <p>平成 21 年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での評価を更に高めるため、漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ 6 時間以上保冷庫で保管し、</p>
---------------------	---

	<p>出荷の際は魚体に傷が無い確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず 5 kg から 5.5 kg になるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。</p> <p>また、市場評価や信頼度を高めるため、漁協は出荷後の状況、例えば魚体に傷があるか、サイズ不統一など問題点を市場関係者から確認し、問題があれば漁業者に改善を求める指導を行う。</p> <p>漁協は、「いなサバ」の商標登録を行い、併せて、ブランドの PR を展開するためノボリ、ハッピー、T シャツを製作のうえ市場や関係団体に提供し、知名度の向上を図る。</p> <p>また、地元スーパーでの直売については、規模を拡大して継続するとともに、福岡の卸業者への直接販売についても、引き続き新たな販路を開拓していく。</p> <p>・アカムツに関する取組</p> <p>漁業者は、1 人の水揚尾数では出荷ロット数を満たさない場合、複数のアカムツ漁業者同士で合わせて 1 箱にして出荷することで、これまで自家消費するなどして所得にならなかった魚を販売し、収益向上を目指す。</p> <p>②【販路拡大、地産地消に向けた取組】</p> <p>《定置網漁業》</p> <p>定置網漁業者は、漁獲物の種類別、サイズ別の箱詰めを行い市場へ出荷するほか、「いなサバ」で行っている地元への直接販売の取組を定置網漁獲物にも併せて拡大し、地産地消を推進することで島内の需要を高め、漁業者の収益向上を目指す。</p> <p>③【資源回復に向けた取組】</p> <p>《全漁業者》</p> <p>全漁業者は、クエ、カサゴ、アワビなど収益性が見込める魚種等の種苗放流やウニの移植、ミズイカ産卵場の整備等を漁協と連携し行い、水産資源の維持及び増大に努める。</p> <p>④【後継者育成に向けた取組】</p> <p>漁協は、県の「次代を担う漁業後継者育成事業」等を活用し、県・市と連携しながら後継者の育成、新規漁業者の確保を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>・全漁業者は、出漁、帰港時に 12 ノットから 10 ノットへの減速航行（2 ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し 1.4% の燃油費の削減を目指す。</p> <p>・全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年 2 回実施を徹底し、基準年度に対し 0.4% の燃油費の削減を目指す。</p> <p>・漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業競争力強化緊急事業 漁業経営セーフティネット構築事業 離島漁業再生支援交付金事業 次代を担う漁業後継者育成事業（県事業）</p>

4 年目（平成 34 年度） 以下の取組により漁業所得を基準年対比 9% 向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】</p> <p>《一本釣り漁業》</p> <p>・サバに関する取組</p> <p>平成 21 年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での評価を更に高めるため、</p>
---------------------	---

	<p>漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ6時間以上保冷庫で保管し、出荷の際は魚体に傷が無いか確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず5kgから5.5kgになるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。</p> <p>また、市場評価や信頼度を高めるため、漁協は出荷後の状況、例えば魚体に傷があるか、サイズ不統一など問題点を市場関係者から確認し、問題があれば漁業者に改善を求める指導を行う。</p> <p>漁協は、「いなサバ」の商標登録を行い、併せて、ブランドのPRを展開するためノボリ、ハッピー、Tシャツを製作のうえ市場や関係団体に提供し、知名度の向上を図る。</p> <p>また、地元スーパーでの直売については、規模を拡大して継続するとともに、福岡の卸業者への直接販売についても、引き続き新たな販路を開拓していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカムツに関する取組 <p>漁業者は、1人の水揚尾数では出荷ロット数を満たさない場合、複数のアカムツ漁業者同士で合わせて1箱にして出荷することで、これまで自家消費するなどして所得にならなかった魚を販売し、収益向上を目指す。</p> <p>②【販路拡大、地産地消に向けた取組】 《定置網漁業》</p> <p>定置網漁業者は、漁獲物の種類別、サイズ別の箱詰めを行い市場へ出荷するほか、「いなサバ」で行っている地元への直接販売の取組を定置網漁獲物にも併せて拡大し、地産地消を推進することで島内の需要を高め、漁業者の収益向上を目指す。</p> <p>③【資源回復に向けた取組】 《全漁業者》</p> <p>全漁業者は、クエ、カサゴ、アワビなど収益性が見込める魚種等の種苗放流やウニの移植、ミズイカ産卵場の整備等を漁協と連携し行い、水産資源の維持及び増大に努める。</p> <p>④【後継者育成に向けた取組】</p> <p>漁協は、県の「次代を担う漁業後継者育成事業」等を活用し、県・市と連携しながら後継者の育成、新規漁業者の確保を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、出漁、帰港時に12ノットから10ノットへの減速航行（2ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し1.4%の燃油費の削減を目指す。 ・全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年2回実施を徹底し、基準年度に対し0.4%の燃油費の削減を目指す。 ・漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。
活用する支援措置等	<p>水産業競争力強化緊急事業 漁業経営セーフティーネット構築事業 離島漁業再生支援交付金事業 次代を担う漁業後継者育成事業（県事業）</p>

5年目（平成35年度）以下の取組により漁業所得を基準年対比10%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>①【鮮度保持及び規格統一の徹底、ブランド化に向けた取組】 《一本釣り漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サバに関する取組 <p>平成21年度から一本釣りで漁獲したサバを「いなサバ」のネーミングで</p>
--------------	---

	<p>売り出しているが、今後、「いなサバ」の市場での評価を更に高めるため、漁業者は、釣り上げたサバをすぐに水氷に入れ6時間以上保冷庫で保管し、出荷の際は魚体に傷が無いか確認のうえ、一箱の出荷重量が必ず5kgから5.5kgになるよう、鮮度保持及び規格統一を徹底する。</p> <p>また、市場評価や信頼度を高めるため、漁協は出荷後の状況、例えば魚体に傷があるか、サイズ不統一など問題点を市場関係者から確認し、問題があれば漁業者に改善を求める指導を行う。</p> <p>漁協は、「いなサバ」の商標登録を行い、併せて、ブランドのPRを展開するためノボリ、ハッピー、Tシャツを製作のうえ市場や関係団体に提供し、知名度の向上を図る。</p> <p>また、地元スーパーでの直売については、規模を拡大して継続するとともに、福岡の卸業者への直接販売についても、引き続き新たな販路を開拓していく。</p> <p>・アカムツに関する取組</p> <p>漁業者は、1人の水揚げ尾数では出荷ロット数を満たさない場合、複数のアカムツ漁業者同士で合わせて1箱にして出荷することで、これまで自家消費するなどして所得にならなかった魚を販売し、収益向上を目指す。</p> <p>②【販路拡大、地産地消に向けた取組】</p> <p>《定置網漁業》</p> <p>定置網漁業者は、漁獲物の種類別、サイズ別の箱詰めを行い市場へ出荷するほか、「いなサバ」で行っている地元への直接販売の取組を定置網漁獲物にも併せて拡大し、地産地消を推進することで島内の需要を高め、漁業者の収益向上を目指す。</p> <p>③【資源回復に向けた取組】</p> <p>《全漁業者》</p> <p>全漁業者は、クエ、カサゴ、アワビなど収益性が見込める魚種等の種苗放流やウニの移植、ミズイカ産卵場の整備等を漁協と連携し行い、水産資源の維持及び増大に努める。</p> <p>④【後継者育成に向けた取組】</p> <p>漁協は、県の「次代を担う漁業後継者育成事業」等を活用し、県・市と連携しながら後継者の育成、新規漁業者の確保を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、出漁、帰港時に12ノットから10ノットへの減速航行（2ノットの減速）を徹底し、基準年度に対し1.4%の燃油費の削減を目指す。 ・全漁業者は、船底とプロペラ等の清掃の年2回実施を徹底し、基準年度に対し0.4%の燃油費の削減を目指す。 ・漁協は、漁業者に対して省エネ機器への機関換装を促し、燃油費の削減を促進する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業競争力強化緊急事業 漁業経営セーフティーネット構築事業 離島漁業再生支援交付金事業 次代を担う漁業後継者育成事業（県事業）</p>

(5) 関係機関との連携

長崎県対馬振興局水産課、長崎県対馬水産業普及指導センター及び対馬市並びに県漁連などの関係団体と情報交換を密にすることで、市場ニーズを的確に把握し、漁業者と漁業者が連携しながら魚価向上に取り組むとともに、前記団体の指導を受けながら鮮度保持や販路拡大に向けた取

り組みを行う。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	5 中 3 平均	：	漁業所得
	目標年	平成 3 5 年度	：	漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

--

(3) 所得目標以外の成果目標

商標登録件数	基準年	平成29年度： 0 (件)
	目標年	平成35年度： 1 (件)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

サバのブランド化を促進するため、「いなサバ」の商標登録を進めていることから、平成35年度までに商標1件の登録を目標とした。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業競争力強化緊急事業	省エネ機関等への換装の推進により燃油コストを削減する。
漁業経営セーフティネット構築事業	国と漁業者が一体となり燃油コストを抑制することで、安定的な漁業経営を図る。
離島漁業再生支援交付金事業	漁場の生産力回復に向けた取り組みを実施し、漁業所得の向上を図る。
次代を担う漁業後継者育成事業（県事業）	新規漁業者の確保・育成に取り組み地域の活力を維持する。